

# 令和5年度 郡市医師会小児救急医療担当理事協議会

と き 令和5年7月27日(木) 15:00～

ところ 山口県医師会6階 会議室

[報告：常任理事 上野 雄史]

本協議会は、県内郡市医師会小児救急医療担当理事、小児救急医療従事者、山口県小児科医会、県行政担当者、山口県医師会役員が一堂に会し、情報交換、意見交換を行うことを目的とし、年1回開催している。

医師会(柳井、徳山、山口市、吉南、下関市、長門市、県医師会)で7回開催され、約82万円の助成を行った(表2)。

## 協議事項

### 1 令和4年度小児救急関係事業報告について

**県医師会** 小児救急医療啓発事業と小児救急医療地域医師研修事業は、県医師会が、県からの委託事業として取りまとめを行っており、郡市医師会で研修会等を開催していただき、実施した郡市医師会に対し助成金として開催費用を出している。令和4年度、小児救急医療啓発事業は、6郡市医師会(柳井、大島郡、徳山、山口市、防府、長門市)で6回開催され、約41万円の助成を行った(表1)。小児救急医療地域医師研修事業は6郡市

### 2 令和5年度小児救急関係事業について

**県医療政策課** 山口県医師会と委託契約している「小児救急医療地域医師研修事業」、「小児救急医療啓発事業」、24時間365日体制で小児科の診療を確保できる病院の運営費の補助を行う「小児救急医療拠点病院運営事業」(済生会下関総合病院、総合病院山口赤十字病院、徳山中央病院、岩国医療センター)、休日夜間の時間帯での小児救急患者受け入れ体制を整備する「小児救急医療確保対策事業」(周東総合病院、長門総合病院)、夜間に電話で小児患者の症状に対する応急処置や医療機関受診の要否の助言を行う「小児救急医療電話相談事業」(#8000)の5事業を継続し行う。

表1 令和4年度小児救急医療啓発事業研修会実施一覧

No.	開催医師会	開催年月日	開催場所	研修会・講習会名称	講師名	講師数	受講者数
1	柳井	令和4年 7月21日(木) 13:30-15:00	柳井市保健センター	こんなとき やっていいこと いけないこと -子どもの病気や救急時の対応は?-	キャブテンキッズクリニック 近藤 穂積 先生	1	27
2	大島郡	令和5年 3月22日(水) 14:00-16:00	たちばなケアプラザ	小児救急講習会	柳井地区広域消防組合 柳井消防署中部出張所	2	10
3	徳山	令和4年 9月8日(木) 13:00-14:30	大河内幼稚園	「園でのCOVID-19:新型コロナのこれまでとこれから」 ~WITH(ウィズ)コロナとLONGロングCOVID(後遺症)~	(医)成心会 ふじわら医院 院長 藤原 敬且	1	14
4	山口市	令和5年 3月19日(日) 13:00-15:00	総合病院 山口赤十字病院 (オンライン開催)	第16回葉香亭セミナー(オンライン) 子どもたちの“からだ”と“こころ”を守る 教えてドクター!	医療法人社団 たはらクリニック 院長 田原 卓浩 まかたこどもアレルギークリニック 院長 真方 浩行 総合病院山口赤十字病院 小児科 門屋 亮	3	31
5	防府	令和5年 3月16日(木) 14:00-15:30	防府市保健センター	小児科医による講演会 「子どもがかかりやすい病気~家庭でできる対処法~」	防府医師会小児科医会 会長 蔵重 秀樹	1	13
6	長門市	令和4年 11月29日(火) 13:30-14:30	長門市 物産観光センター	令和4年度 育児講演会 「気をつけよう 事例から学ぶ子どもの事故」	長門総合病院 小児科 青木 宜治	1	22

表2 令和4年度山口県小児救急医療地域医師研修事業研修会実施一覧

No	郡市医師会	開催年月日	場所	研修会名	講師名	参加者数
1	柳井	令和4年6月24日(金) 19:10-20:10	Web開催	小児救急医療地域医師研修事業研修会 「外来で診察する小児内科内分泌疾患-主として低身長症-」	山口大学大学院医学系研究科医学専攻 小児科学講座 助教 福田 謙	28
2	徳山	令和4年9月28日(水) 19:00-20:30	Web開催	周南地区小児救急医療地域医師研修会(web研修会) 「小児耳鼻科の診かた～聴力検査を中心に～」	鼓ヶ浦こども医療福祉センター 耳鼻咽喉科部長 池田 卓生	31
		令和5年1月18日(水) 19:00-20:30	Web開催	周南地区小児救急医療地域医師研修会(web研修会) 「明日から使えるプライマリケア・小児救急領域の小児臨床超音波～小児科医はこどもの総合医であり、代弁者である～」	北九州市立八幡病院 小児総合医療センター 小児科部長 小野 友輔	74
3	山口市	令和5年2月16日(木) 19:00-21:00	山口市医師会館 (ハイブリッド開催)	「#8000事業-現状と課題-」	たはらクリニック 院長 田原 卓浩	55
				「熱性けいれん-ガイドライン2023で何が変わった?～」	萩市民病院小児科 科長 井上 裕文	
				「小児頭部外傷の対応って どうするの?」	山口赤十字病院 脳神経外科部長 濱田 康宏	
4	吉南	令和4年10月27日(木) 19:00-21:00	吉南医師会館 講義室及びWeb (ハイブリッド開催)	小児救急医療地域医師研修会 「小児急患の対応 ～その他、アレルギーや不登校などのお話も～」	あじすこどもクリニック 院長 元山 将	12
5	下関市	令和5年2月4日(土) 18:00-19:25	下関グランドホテル 及びWeb (ハイブリッド開催)	令和4年度小児救急医療研修会 「こどもの風邪とその対応」	北九州市立八幡病院 小児総合医療センター 西山 和孝	66
6	長門市	令和5年3月7日(火) 19:00-20:00	長門市医師会館	小児救急医療地域医師研修会 「実臨床に生かすガイドライン(急性胃腸炎・気管支喘息)」	長門総合病院 小児科医 青木 宜治	13
7	県医師会	令和4年12月4日(日) 13:00-14:00	山口県医師会館 及びWeb (ハイブリッド開催)	学校医研修会 「危ない!ポカンロ」	公益社団法人山口県歯科医師会 会長 小山 茂幸	71
		令和4年12月4日(日) 14:10-15:10	山口県医師会館 及びWeb (ハイブリッド開催)	予防接種医研修会 「医療安全の視点からみた予防接種に関する間違い防止」	崎山小児科 崎山 弘	

出席者

郡市担当理事

大島郡 川口 寛  
 玖珂 川田 礼治  
 熊毛郡 竹ノ下由昌  
 吉南 元山 将  
 美祢郡 竹尾 善文  
 下関市 岩井 崇  
 宇部市 松岡 尚  
 山口市 鮎川 浩志  
 萩市 花宮理比等

徳山 大城 研二  
 防府 藤原 元紀  
 下松 篠原 照男  
 岩国市 岩崎 淳  
 山陽小野田 砂川 新平  
 光市 山手 智夫  
 柳井 志熊 徹也  
 長門市 綿貫 浩一  
 美祢市 横山 幸代

山口県小児科医会

会 長 田原 卓浩  
 理 事 藤原 元紀

県医師会

会 長 加藤 智栄  
 副 会 長 沖中 芳彦  
 常任理事 前川 恭子  
 常任理事 河村 一郎  
 常任理事 上野 雄史  
 理 事 竹中 博昭

周南地域休日・夜間こども急病センター  
 大城 研二

県健康福祉部医療政策課医療対策班  
 主 幹 下川 直伯  
 主任技師 渡辺 英子

山口・防府地域夜間こども急病センター  
 門屋 亮

ファストドクター株式会社

**田原 県小児科医会長** オンライン相談業務も全国展開されており、非常に評価は高くなっている。#8000と並行してニーズも高まると思うが、来年度以降、オンラインシステムが事業の中に組み込まれる可能性があるか、分かる範囲で教えていただきたい。

また、#8000事業に予算額が明示されているので、来年以降は入札が基本と理解してよいか。

**県医療政策課** 令和5年度から産婦人科・小児科オンライン相談事業を開始している。妊婦・保護者の方が不安に思うことを気軽に相談できるようにしている。オンライン相談事業は小児救急と直結するものではないため、現時点では#8000事業とオンライン相談事業を連携させる方向では考えていない。

現時点で予算編成はされていないため、確定的なことは申し上げられないが、第8次医療計画のなかでも、#8000事業は基軸的な事業として位置付けられているので、基本的には継続する方向と考えている。

### 3 山口県小児救急医療電話相談事業（#8000）について

#### ①令和4年度実績報告

**県医療政策課** 昨年度は「株式会社法研」に委託していた。コロナの影響で令和2年度には7,202件と相談件数が下がったが、その後、徐々に増加し、昨年度は8,830件であった。時間帯相談件数は、19時から22時の時間帯が多かった（年度間相違なし）。曜日別相談件数では土日の相談件数が多く、令和4年度は木曜日が多かった。住所別相談件数は、山口・防府、次いで周南、下関、宇部・山陽小野田圏域の順で多かった（年度間相違なし）。年齢別では1～3歳未満が最多であった（年度間相違なし）。相談対応者（受託業者で対応した職種）は看護師のみがほとんどで、対応方法は、説明・助言が6割、相談内容は、その他を除くと発熱が最多であった。相談対応者への感想は大半が「十分納得」との感想。県医療政策課へ「電話が繋がらなかった」との苦情が1件あった。

相談対応者への感想は対応された方の主観的な印象での評価である。令和5年度から、実際に相談者の方の声を拾えるように事業を進めている。

#### ②令和4年度 #8000 情報収集分析事業

**田原 県小児科医会長** 本分析事業は、厚生労働省から日本小児科医会が委託を受けており、毎年、担当理事の渡部先生が精力的に分析している。昨年度は令和4年9月1日から11月30日の情報収集期間で分析。情報分析方法は、全体及び都道府県別の分析を行い、#8000の特徴、都道府県間の差異、経年変化、新型コロナウイルスの関連相談等を検討。「119番あるいはすぐに受診をすすめた」は、都道府県間差異が大きい。全国で5事業者（令和5年度から6事業者）に事業委託をしているが、事業者ごとに救急度判定の傾向があることがわかった。相談対応者の相談業務経験年数別の緊急度判定では、経験年数の少ない方のほうが、直ぐに受診をすすめる傾向がある。相談対応者が受診すべきと考えた診療科は、小児科が64.1%と多いが、その他が12.1%ある。これは小児の外傷に関する問い合わせが多くなっており、今後の課題として、小児外傷に対応できる医療機関の情報収集が必要である。総相談件数は249,637件で、前年度の1.39倍、平成29年度の本事業開始以来、最多であった。相談対象児年齢は1歳未満が22.6%、2歳未満が42.5%、3歳未満が56.0%で、乳幼児早期のニーズが高い。主訴は割合順で、発熱31.3%、咳9.4%、嘔気・嘔吐9.2%、頭部以外の外傷8.4%、頭部打撲7.4%。相談者続柄は母親が82.7%と最多、相談者年齢は40代が増えてきている。#8000事業の経年変化は、COVID-19により発熱は減少し、外因系主訴は増加し、相談前受診は減少した。新型コロナウイルス関連相談の検討では、相談対象児年齢は5歳以上が多い。主訴は発熱、頭痛、薬が多く、咳、けいれん・ふるえは同じで、外因系は少なかった。

#### ③令和5年度実績中間報告

**ファストドクター株式会社** 月別相談件数は、4

月888件、5月1,114件、6月1,052件で、昨対比+38%。時間帯別相談件数は19時から22時の相談が全体の約半数を占める。住所別相談件数は、山口・防府、周南、下関、宇部・山陽小野田、岩国、その他の順に多い。年齢別相談件数は、1歳未満が22%、1～3歳未満が32%で3歳未満が半数以上となっている。主訴は3分の1以上が発熱の相談。今回、受託する際にいただいた課題として、応答率が分からないため、受電体制が十分かの判断ができない、患者満足度が分からない、消防や救急病院の負担軽減になっているのかわからないということがあり、応答率を計測し月次で県庁へ報告、患者満足度や受診行動の転機を分析するアンケートを実施し、情報の可視化に努めている。現時点で、応答率78.9%、平均通話時間6分57秒。アンケート回収率21.6%(n=660)で、「不安は払拭されましたか？」は5段階評価で4.28、「家族や友人に薦めたいですか？」は5段階評価で4.23であった。アンケート調査によると、#8000の介入により、自宅安静を選択する割合が3.7倍に増加。翌日受診や自宅安静を指示した症例で、転帰が入院（アンダートリアージ）となっているものはなかった。

### 意見交換

#### 門屋先生（山口・防府地域夜間子ども急病センター）

- ・軽傷の患者で受診を勧めているケースが多いのではないかと印象がある。
- ・軽傷なものにも関わらず、救急車利用を薦めるケースがかなり多い印象がある。
- ・もう少ししたら診療開始時間に來れるのに、直ちに行ってくださいと言われてきたケースがかなり多い。
- ・外科系の疾患を内科系の小児救急に受診誘導しているケースが結構多い。
- ・高校生の年齢の方が電話でアクセスして來られる方が多い。
- ・相談のみを、もう一度、子ども急病センターに相談してくださいと言っていることがある。

今すぐ119番するケースが去年のデータと比べて、行動が変わってきているか教えてほしい。

**ファストドクター株式会社** 救急車に関しては、緊急性の高い層はあまり変わらないので、そんなに多くは変わらないのではないかと考えている。基本的に、トリアージのマニュアルは、総務省・消防庁が出しているコールトリアージマニュアルを活用している。救急度判定は、小児科の医師、看護師の習熟度によるという点は、先ほどの令和4年度#8000情報収集分析事業の報告の内容と同じ感触を持っている。

#### 大城先生（周南地域休日・夜間子ども急病センター）

今のところ#8000でトラブルはない。以前は大島郡から患者さんが來た等があったので、土地柄を勉強して紹介してもらう必要がある。

**田原 県小児科医会長** 日本小児科医会及び厚労省では、全国の電話相談に來るデータを、より現場にフィードバックできるように、活用しながら分析を続けていくことになっており、データを取るときの患者さん（お子さん）の対象年齢の枠など、お願いしたい件がいくつかある。現在、都道府県別に日本小児科医会と個別の意見交換会をオンラインで実施しているので、ぜひその点をご協力いただきたい。

先ほど外科系の相談が多くなっていると言われたが、その他が非常に多いため、細かく分析するためにいろいろご意見をいただきたい。相談に対応されている先生方にキャリアの長短があると思うが、社内研修、評価をどのようなスタイルで行っているか教えていただきたい。

**ファストドクター株式会社** 社内研修については、基本的に、診療単位でサービスの質と医療の質の2軸でスコアリングができるようになっており、一種の人事評価に紐づけられるようになっている。いろんな尺度があるが、サービスの品質の部分については、患者さんから取っているネットプロモータースコアという数値があり、これが患者さんの満足度を示している。医療の質に関して、相談と診療においては大きく違うが、相談に関してはオーバートリアージかアンダートリアージかといったところが一つ大きな基準になってく

らと思っている。相談を受けた場合の緊急度のトリアージの判定の色、その後の転帰や3日後の予後データをセットとして取りまとめており、後ろ向きに振り返ることができるようになっている。アンケートの回収率にもよるが、少しずつ精度が上がっていくものと思っている。

**田原 県小児科医会長** オンライン診療に関しては、厚労省が山口県の萩地域の離島も含めて、モデルケースとして指定し、数年前から山口県立総合医療センターを中心として展開されている。コロナ禍で大きく変動もあったと思うが、救急医療の観点から、オンライン相談に付随して感じられていることがあれば教えていただきたい。

**県医療政策課** 山口県立総合医療センターのへき地診療部が中心となって、山口県内のへき地、離島でも安心して医療を届けられるようなオンライン診療の導入を数年前から徐々にしている。令和5年度も5Gを活用しての事業が行われているとは聞いている。小児医療に関する部分では、令和5年3月に国が小児医療体制の構築指針を示しており、その中で、小児医療体制の集約化・重点化を大きく進める必要がある都道府県もあり、進めたときにアクセスが悪化した地域の小児のために、オンライン診療の導入も検討してはどうかと記載があることは、県として承知している。山口県のなかでこういったものが必要かどうかは、行政だけでは見えてこない部分もあるので、先生方の話をしっかり聞いたうえで、県としても今後、考えていきたい。

**下関市 担当理事** アンダートリアージがないことが大事と思うが、オーバートリアージも困ったことで、明らかなオーバートリアージで#8000で救急要請があった症例があった。救急要請が適切だったかをフィードバックできると良いと思う。

救急要請した場合、救急隊から書面が来てドクターがサインをするが、それに救急要請が適切だったか否かをチェックするシステムを作ることも検討いただきたい。

**ファストドクター株式会社** 119番に該当したもののだけでは、母数はそれほど大きくならないと思うため、そういったところから徹底して、実態を見に行くことができればわれわれとしても嬉しく思っている。全体の調整がかかってくると思うので、少し相談ベースでお話できればと思う。

**県医療政策課** 先生方や受託業者とも話ながら、こういった形がよいか、考えていきたい。

**田原 県小児科医会長** 家庭看護力も醸成することをプロモートしていただきながら、不要不急の受診のバランスを取るために、そういったこともコラボレーションしていただければと思う。

**門屋先生(山口・防府地域夜間こども急病センター)**

実情が同じ救急医療体制一図といっても、大都会で救急車が何台も並んで、そこに何人も救急医がいる状況と、少数の患者を少数の医師が診ているため比較的待たずに救急車でなくても診ることができる、逆に救急車は台数が少ないため出動していると重要な人が運べない等、山口ならではの実情が当然出てくると思うので、山口ならではの分析をしていただいた方が、かなり精密な分析をする期待感を持っている。都会と同じ物差しで解析しても見えるものが見えないと考えている。